

大治小だより



目指す子どもの姿：「よく考える子・思いやりのある子・がんばりぬく子」 令和8年1月23日

○朝礼 1月19日(月)

校長講話では、明日の「大寒」を前に、日本の暦からこの時期に紹介したい言葉を取り上げました。

また、後半では、**学級委員の認証式**を行いました。3学期は短い学期ではありますが、1年のまとめと次へのつながりのとても大切な学期です。壇上に立つ新学級委員の皆さんの顔が輝いて見えました。

【校長講話】

日本の暦である「二十四節気」・「七十二候」では、1月15日から19日頃を『雉始雊（きはじめてなく）』としています。

「雉」は、鶏よりも少し大きく、尾の長いことが特徴の鳥です。『雉始雊』は、寒さの厳しいこの時期ですが、春の足音を感じ取った雄の雉が、「ケーン、ケーン」と鋭く鳴き始める様子を表しているところからきた言葉だそうです。古くから雉の鳴き声は、冬の終わりと春の兆しを告げるものとされてきました。

まだまだ寒い日が続きますが、春はすぐそこまで来ています。インフルエンザ等の感染症に気をつけ、元気で、そして、笑顔でお互いを思いやる、そんな優しく温かい気持ちで春が迎えられよう過ごしたいですね。

○3年生「ふるさとを学ぶ会」 1月23日(金)

本年度は町制50周年の年度でもありましたから、特に今年は何の学年も「ふるさと大治」を意識した授業や活動に取り組んできました。そんな中で、これまで「おじいさん・おばあさんに学ぶ会」としていた本会も、「ふるさとを学ぶ会」とし、人生の先輩であり、同じ「ふるさと大治」に住む方として、9名の皆様に講師にお招きし、昔の遊びを教えていただきました。

